

C o n t e n t s

※巻頭言	会 長 尾崎 文彦	1
※会誌 20 号発刊に寄せて	広報局長 松村 明子	3
※ママさん PT 奮闘記		5
※育メン PT 奮闘記		7
※各部・委員会の活動紹介		9
※院所・施設紹介		33
※協会の活動紹介		39
※平成 2 5 年度受賞者紹介		47
※（公社）奈良県理学療法士協会 定款・細則		55
※（公社）奈良県理学療法士協会 規定および申し合わせ事項		67
※（公社）奈良県理学療法士協会 組織図		95
※（公社）奈良県理学療法士協会 施設一覧		97
※（公社）奈良県理学療法士協会 役員・部員・委員名簿		109
※編集後記		

卷 頭 言



巻 頭 言



会長 尾崎文彦

平成 25 年度の日本の重大ニュースと言え、記憶に新しいところで、ソチ冬季オリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍です。本当に感動の連続でした。他国の選手からもたくさんの感動を頂きました。その他にも、STAP 細胞騒動、ゴーストライター問題、2020 年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催決定、富士山の世界文化遺産決定、参院選で自民、公明両党が過半数獲得、プロ野球では楽天が初の日本一、田中投手の連勝新記録とバレンティン選手の本塁打新記録、伊豆大島での土石流災害、消費税率 8 % への引き上げ決定、T P P 交渉参加表明、相次ぐ食材偽装の発覚、アルジェリア人質事件、特定秘密保護法案、高知県四万十市で史上最高の 41 度、徳洲会事件、高校体罰事件、福島第一原発のタンク汚染水漏れ、J R 北海道の不祥事、等々。毎年毎年、世界でも日本でも色々なことが起こります。嬉しいことも楽しいことも、悲しいことも辛いことも、色々なことが起こります。

それから、2013 年新語流行語大賞のトップテン年間大賞は、「今でしょ!」「お・も・て・な・し」「じぇじぇじぇ」「倍返し」、トップテンは「アベノミクス」「ご当地キャラ」「特定秘密保護法」「PM2.5」「ブラック企業」「ヘイトスピーチ」、選考委員特別賞は「被災地が、東北が、日本がひとつになった 楽天、日本一をありがとう」でした。

我々理学療法士の業界でのトップニュースと言え、当然、7 月の第 23 回参議院議員通常選挙での山口和之先生の当選です。現在、参議院厚生労働委員会委員や参議院東日本大震災特別委員会理事などの立場でご活躍しておられます。そして、もう一つが、11 月の厚生労働省医政局通知です。内容は「理学療法士が、介護予防事業等において、身体に障害のない者に対して、転倒防止の指導等の診療の補助に該当しない範囲の業務を行うことがあるが、このように理学療法以外の業務を行う時であっても、理学療法士という名称を使用することは何ら問題がないこと。また、このような診療の補助に該当しない範囲の業務を行う時は、医師の指示は不要であること。」です。

次に、業界での流行語と言え、非常に残念な事ですが、「なんちゃってリハビリ(理学療法)」です。しかもこの言葉が厚生労働省の診療報酬担当者から飛び出したことはショックに耐えません。(公社)日本理学療法士協会の半田会長のメッセージをお借りすると、「患者さんに運動をさせるのではなく、運動療法を行うからこそ診療

報酬がついているのです。散歩でもなく、歩行でもなく、歩行練習をさせるからこそ、診療報酬をいただける。」「マッサージとお散歩に終始する理学療法士では社会的使命を果たすことは不可能」と言う事を自覚し直さなくてははいけません。

さて、本会の平成 25 年度は、公益法人移行の 1 年目でした。過去の事業の公益性を認めて頂いていたので、事業自体が大きく変わったわけではありませんが、公益社団法人としての未熟な部分がより明確になりました。今後、その部分をどうやって改善していくのかが大きな課題となります。とはいえ、大事業であった法人設立 20 周年記念式典と祝賀会を、たくさんのご来賓の皆さんをお迎えして無事に開催できたことは何よりの喜びです。その他の事業も局長、部長、委員長、部員そして委員の方々の努力により、無事に終えることが出来ました。あらためて深く感謝いたします。

今後も、理学療法士の職業倫理の高揚を図るとともに、理学療法の学術及び技能の向上を推進し、もって県民の医療・保健・福祉の増進に寄与することを目的に、今まで以上の努力をしてまいります。皆様方の温かいご指導ご鞭撻を賜りますことをお願いいたします。

(公社) 奈良県理学療法士協会
会誌 20 号発行に寄せて



会誌 20号発刊に寄せて



理事 広報局長 松村 明子

平素は奈良県理学療法士協会の活動・運営に、ご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。

この度、奈良県理学療法士協会会誌の20号を無事発刊できたことを嬉しく思います。

平成6年（1994年）に第1号を発刊して以来、歴代の委員長・部長である門脇明仁先生、下出好夫先生、堀口元司先生、田中耕嗣先生方々のご尽力と、会員及び関係者の皆様のご協力のお蔭だと思えます。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。

会誌は1年間の県士協会の足跡です。平成25年度は県士協会にとって節目の年でありました。皆様もご承知の通り、平成25年11月17日に奈良日航ホテルにて「法人化20周年記念式典」を開催しました。1993年に前身である「社団法人奈良県理学療法士会」として県より許可を頂き、政府の法人改定の関係もあり平成25年4月からは「公益社団法人奈良県理学療法士協会」として新たにスタートをきりました。今まで以上に県民の皆様に理学療法を通して、「県民の医療・保健・福祉の増進に寄与すること」を求められる事になりますが、より理学療法士としての役割を発揮できるようになるのではないのでしょうか。

このように、求められる役割も時代と共に変化をしている中、情報伝達・入手手段も激変をしています。インターネットやスマートフォンが急激に普及しており、手軽に情報が入手できる世の中になっています。県士協会も世相を反映し、ペーパーレス化を目標に、平成25年度にIT化・組織検討委員会を立ち上げました。現在広報局には、「HP管理部」、「ニュース編集部」とこの会誌を編集・発行している「会誌部」があります。IT化に伴い広報局は大きく変化をする事と思います。HP管理部は拡大し外部の企業に協力して頂き、よりスピーディーに皆様に情報を提供する事が出来るかと思えます。ニュース編集部に関しては、ニュースの発行は終了となります。会誌に関しては、誰もがHPで閲覧できるようになり、発行部数を減少させます。今まで郵送されてきた色々な情報はHPより入手して頂く形になります。これらの変化により印刷費・郵送費を縮小させて、その分を有意義に活用できるように検討しています。また、研修会等の申し込みもHPから行って頂く様に検討しています。

日本理学療法士協会のニュースに掲載されていましたが、平成 26 年 3 月の国家試験の結果、累計 119,990 名が理学療法士の免許を持っています。奈良県にも 1,000 名を超える理学療法士が、同じ志を持って仕事をしているかと思います。その志の一翼を担えるような広報局になれるよう努力をしていきたいと思っていますので、今後とも皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。

ママさん PT 奮闘記

ママさんPT 奮闘記

奈良県総合リハビリテーションセンター

部屋 和世

①家族構成

会社に勤める夫、小学1年生の息子、年中の娘です。近くに実母が住んでおり、何かと助けてもらっています。

②日常の様子

私の場合、自分自身の体力、気力に左右されやすく、うまく事を運べず、日頃から実母、夫に助けてもらってなんとか一日が終わることが出来ています。

朝の方が自分の体力があるので比較的家事は、はかどります。食器を洗ったり、洗濯ものを干したり、子どもたちの登校、登園の準備をします。子どもたちを起こし、子どもたちの身支度、ご飯を食べさせ、保育園に送り、職場に出勤します。

仕事が終わって帰りに保育園、学童に迎えに行き帰宅してからは力が残っていればご飯を作ったり、実家からの差し入れでしのいだり、冷凍・レトルト食品、夫に帰りに出来合いのものを買ってきてもらい、なんとかお腹を満たします。子どもたちのお風呂や寝かしつけは夫がしてくれることが多いです。

いつも今日こそは、今日こそ頑張って家事しようと思うのですが、今日も何も出来なかったとため息をついて終わる毎日です。

③ハンディを感じる時

保育園のお迎えの時間があるので、間に合うように職場を出なければなりません。なので、時間内に仕事を終えるため、他のスタッフと雑談する時間がなかったり、患者さんについての相談事や意見を聞かせてもらう時間がなかったりと他のスタッフとコミュニケーションとる時間がほぼありません。

自分独りの判断で行うことも多く、他の同じような症例との比較が出来なくてこれでいいのかという不安、大事な内容でも自分勝手に判断して先走ったり、誤解をしたり、招いたりして失敗することも多く残念だなと思います。

④社会にのぞむこと

子どもが急な発熱で保育園からの呼び出しと、子どもの起床時に発熱が発覚した時が一番あせり、頭が真っ白になります。

最近、病児保育をしている施設も増えてきていますが、いつも利用している保育園ではないのでスタッフや施設に子どもや私も慣れておらず、利用しづらいです。いつも利用している保育園で病児保育をしてもらえるとありがたいです。

⑤出産を控える女性PTさんに。

特に初めての妊娠は、自分で自分の体がわからず、どこまで出来るのか、どこから無理しているのかがよくわかりにくく、ついつい無理をしています。

それに何だか、疲れやすくなって自分が怠け者になった気分になりますが、自分を責めず、限定された妊娠期間中なので自分の体に正直に体を休められた方がいいと思います。

⑥これからパパとなる男性PTさんに。

私の周囲にいるリハビリテーションに携わる男性スタッフは、仕事柄患者さんとのコミュニケーション能力が要求されることが多いので、奥様や、ご家庭の雰囲気や敏感に感じ取られ、臨機応変に対応されているように思います。また日頃から男女関係なく仕事もしているためか、家庭でも、子どもの世話や家事等協力されて良き夫、パパをされているように思います。ですのできっと大丈夫です。

⑦最後に...

今回はママさんPTを取り上げてもらいましたが、奮闘しているのはママさんだけではなく、職場の中には、忙しいママに代わって奮闘しているパパ、シングルファーザー、ご家族のどなたかが入院されている、介護にあたっている方、ご自身が持病を抱えながら仕事されている方、地域や子ども関係の役員をされている方など、いろいろな立場におかれている方が集まっている場でもあると思います。

できるだけ、色々な立場の人が仕事を続けやすいようなユニバーサルな職場であるよう、また、限られた人に仕事が偏らないようお互い助け合いながら、成長していけたらと思います。

そして、最後の最後になりましたが、私の周囲の皆様、いつもあたたかく見守って下さりとても感謝しています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

育メン PT 奮闘記

イクメン PT 奮闘記

社会医療法人 健生会 土庫病院
理学療法士 北川翔太

～家族構成～

昨年9月に産まれた末っ子次男を含め、諸々の事情で妻、長男、長男からは歳の離れた幼稚園に通う長女、次女の6人家族です、毎日ガヤガヤと賑やかです!!

以下、men's 理学療法士として働きながら育児にも参加していくなかで
の出来事、雑感を思うままに書いていきたいと思ひます、よろしくお願ひ
いたします。

① 朝がまず大変!!

6時45分「ク、ク、クックルーン♪」、キッチン戦隊クックルンに合わせ我が家は動き出します。寝室から娘を抱き上げ連れてきますが、次女はすぐに布団に戻ります、「眠たーい(泣)」、早朝からこちらが泣きそうです(笑)。苦勞して朝ごはんを食べさせ、歯磨き・洗面、「パパ一緒に歯磨きしよー♪」。まあ朝は忙しいですがかわいいものです。自分の準備、娘の準備もみながら末っ子・次男のオムツ交換にお着替えに洗濯など等・・・とにかく少しでも用事を減らすためにやることがいっぱい!! 妻と共に慌ただしく朝は過ぎていきます。

② 夜も大変!!

夜は夜で帰宅後は忙しく夕食を準備する妻を横目に、お風呂の準備をして入浴、先に私が入り、次男を連れてきてもらい、長男に娘たちが入ってきて次男の面倒をみてもらっている間に私が出て次男を風呂からあげる・・・次女がお昼寝をしていなくて機嫌が悪いと本当に大変です(笑)。夕食の頃にはもうクタクタです(笑)。これもひとえに妻がおいしい夕食を作ってくれるから頑張られるというものです。その後食器洗いや洗濯物も片付け、次男のお世話を妻と分担、絵本の読み聞かせをして子ども達の1日は終わります。

③ 休日も大変!!

休日の子どもの朝は烈車戦隊トッキュウジャーから、仮面ライダー鎧武→ハピネスチャージプリキュアと続きます、朝早いです(泣)(笑)。我が家の買い物は1週間メニューを決めて、まとめてします。その買い物も本当に大変です。ウロウロちよろちよろ、あれしたい、これしたい・・・、帰る頃にはぐったりです。公園に連れていったり、映画にいったり、まあ子どもたちが素直に喜んでくれるので頑張れます。

④ 家庭の事は夫婦協働で

子どもの人数が多いと当然家事も増えます、私自身は子どもたちの入浴は当然として、食器洗いや洗濯などそれなりに何でもこなしているつもり

です。たまに食事も月に1～2回ぐらい作ります。末っ子もお世話もオムツを替えたり、ミルクを作ったり、離乳食を食べさせたりと・・・、夫婦協働でがんばらないと、やっぱり1日の用事がなかなか終わらないと思います。講習会等で1日不在のこともあるので、妻にもパン教室に行ってもらって気分転換をしてもらったりお互いに気遣うようにしています。

⑤ 理学療法の勉強もしたい!!

やはり理学療法士なので当然患者に還元するために、日々の学習等は必須です。朝早く起きて、職場での昼休みの時間に、夜子どもたちが寝た後に・・・出来るだけ時間を見つけて作って本を読んだり、講習会の申し込みをしたりなどしています。時間がないと言い訳だけは絶対にしないようにしています。僕は基本的にお小遣いはいらないと妻に言っていて、給料も全て渡しています。娯楽のために遊びにいくつもりもないですし(そんな時間があるなら家族と過ごすか、勉強していきたい)。特に趣味もありません(強いて言うなら仕事)。講習会や、書籍代、講習会での懇親会は行かせてほしいとお願いしています。しかし、なんでもかんでも行けるわけではないので本当にその時に必要と感じたもの、出来るだけ良いものを吟味して選択するように心がけています。

⑥ 職場の環境

妻に車の免許がないので、娘のお迎えや通院などは私が行っています。基本的に定時を過ぎたら帰らせてもらうようにしているのですが、上司やスタッフの理解のおかげでなんとか毎日過ごさせています。これには本当に助かりますし、心理的にもとても心強く感じています。参観や娘の通院の時にも半日お休みを頂いたり出来ていますので、とても恵まれた環境で仕事が出来ていると日々感謝しております。

⑦ 助っ人の存在

子どもが多いと、やはりお互いの両親に助っ人として来てもらう事もあります。子どもの受診時や、映画や公園に遊びに行くときの付き添いなど等・・・。帰りが遅くなる時や宿泊が必要な研修会の時なども来ていただけるのでとても助かります。子どもたちもなついてくれているので、子どもたちの気分転換にもなっているのではないのでしょうか。

⑧ 最後に

夫・父親としての役割はとても大変です、妻からも子どもたちからも「完璧」な夫・父親を求められると思うので、適度に息抜きしながら頑張りましょう(笑)。



協会各部・委員会の活動紹介

協会各部・委員会の活動紹介

㊦ ニュース編集部 ㊦

ニュース編集部部長 栗本尚樹

これまでニュース編集部では「奈良県理学療法士協会ニュース」を年4回発行してまいりました。記事の内容は、尾崎会長をはじめ副会長、理事持ち回りでのリレー巻頭言、理事会議事録、各局各部からのお知らせ、学会・研修会への案内や参加記等です。また求人等の広告掲載も行ってまいりました。

今年度は5月中旬と9月頃の2回発行を予定しており、今年度をもちまして廃刊となる予定です。これまで皆様からはたくさんの情報提供をいただきありがとうございました。今年度も引き続き皆様からの情報提供をお待ちしております。

㊦ 理学療法啓発部 ㊦

理学療法啓発部は、理学療法週間関連事業の企画・運営を通じて広く一般の皆様へ「理学療法」を啓発する事が主な活動であります。

様々なメディアを用いて、あの手この手と企画するのが楽しく、やりがいのある部活動を展開しております。

昨年度の事業を例に挙げますと、「第2回 理学療法川柳の募集」を実施し、431句もの応募をいただきました。その前年度は63句の応募数でしたので、比べますと大幅に応募数が増加いたしました。一句詠むのがお好きな方々が多い事を改めて実感した幸いです。この企画のますますの発展を期待しつつ、できれば啓発部の看板企画へと定着させて行きたいと考えております。

また、今年度は新たに奈良県理学療法士協会が主催する公開講座の企画・運営を当部が担当させていただくことになりました。窓口を一本化することで系統だてた企画が提示できればと部員一同、知恵を絞っております。

例年この場をお借りして皆様をお願いをしておりますが、新しい企画・講演会の要望等がございましたら、気軽に啓発部（天理よろづ相談所病院：岡本）までご連絡下さい、お待ちしております。



㊦ 総務部 ㊦

総務部の業務としては、定款等の運営、公文書の発送・受領、刊行物受領、理事会運営などの、法人活動における事務作業を行っています。中でも、毎年5月に開かれる定期総会は法人活動において重要なものです。資料作成、会場設定、書記などの業務を他部との協力のうえ行っています。若い会員の方には、難しい印象があるかもしれませんが、一度総会に足を運んでみませんか。同時に、奈良県理学療法士協会ニュースやホームページに掲載されている定例理事会議事録にも目を通していただくと、本会がどのように運営されているかがご理解いただけるとと思います。事務作業を通して、円滑な協会運営に少しでも貢献できるよう活動しています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

【第20回定期総会開催風景】



生涯学習部

生涯学習部では、新人教育プログラムセミナーの開催と、その後の生涯学習および各専門領域研究部会における認定・専門理学療法士取得の支援を行っています。新人教育プログラムは平成24年度より内容が見直され、必須教育テーマ5単位、選択テーマ10単位の合計15単位が修了要件となりました。また修了年限も3年以上から1年以上に見直され、最短1年での修了が可能となりました。早期から専門領域研究部会への入会することによる、高いレベルでの自己研鑽が推進されています（JPTA NEWS NO274 参照）。昨年度の実施報告を表に示します（今年度の開催予定を示すものではありませんので、ご注意ください）。なお各種講演や研修会によっては、新人教育プログラムの「理学療法の臨床（C1-5）」に読み替えることができる場合があります。

本年度も新人教育プログラムセミナーは年4回開催予定です（各テーマの開催は年に1回です）。セミナー開催日時等の案内については、奈良県理学療法士協会ホームページ等に掲載してまいります。単位取得に努めて頂きますよう、よろしくお願い致します。

認定・専門理学療法士制度は、新人教育プログラム修了者を対象に、自らの専門性を高め、良質なサービスを提供する臨床能力を備え、理学療法の学問的発展に寄与する研究能力を高めていくことを目的としています。7専門分野（基礎理学療法、神経理学療法、運動器理学療法、内部障害理学療法、生活環境支援理学療法、物理療法、教育・管理理学療法）のいずれかひとつ以上の専門分野に登録し、認定理学療法士・専門理学療法士を目指します。2013年8月時点での認定理学療法士資格保有率は全会員の0.8%、専門理学療法士資格保有率は全会員の2.0%であり、奈良県での資格保有率は全国平均並みです（認定0.8%、専門1.9%）。くわしくは日本理学療法士協会ホームページをご覧ください。

【新人教育プログラムセミナー開催風景】



【平成 25 年度 奈良県理学療法士協会新人教育プログラム実施報告】

平成 25 年度 新人教育プログラムセミナー実施状況

平成 26 年 4 月 18 日

講座名	新テーマ	旧テーマ (現在取得済のテーマは 2012 年 4 月に自動的に移行します)	必須選択		終了要件 (単位数)	奈良県 理学療法士協会 での実施状況
			必 須	選 択		
必須初期研修	A-1 理学療法と倫理	I-2 職業倫理・管理運営	1		1	○ H25. 6. 2
必須初期研修	A-2 協会組織と生涯学習システム	I-1 協会組織と生涯学習システム	1		1	○ H25. 6. 2
必須初期研修	A-3 リスクマネジメント (安全管理と感染予防含む)	II-2 人間関係及び労働衛生	1		1	○ H25. 8.25
必須初期研修	A-4 人間関係および接遇 (労働衛生含む)	II-2 人間関係及び労働衛生	1		1	○ H25. 8.25
必須初期研修	A-5 理学療法における関連法規 (労働法含む)	I-4 理学療法士・作業療法士法および関係法規	1		1	○ H25. 8.25
理学療法の基礎	B-1 一次救命処置と基本処置				1	○ H26. 2. 2
	B-2 クリニカルリーズニング	II-1 学問としての理学療法と研究方法論			1	○ H25. 8.25
	B-3 統計方法論※1	II-6 症例検討 II			1	
	B-4 症例報告・発表の仕方※1	I-6 症例検討 I			1	○ H25.12. 8
理学療法の臨床	C-1 神経系疾患の理学療法	I-5 トピックス I			1	読み替え
	C-2 運動器疾患の理学療法	II-5 トピックス II			1	読み替え
	C-3 内部障害の理学療法	III-5 トピックス III			1	読み替え
	C-4 高齢者の理学療法	II-3 生活環境支援			1	○ H26. 2. 2
	C-5 地域リハビリテーション (生活環境支援含む)	I-3 地域におけるリハビリテーション			1	○ H26. 2. 2
	C-6 症例発表	III-6 症例検討 III			3	奈良学会等
	C-7 土会活動・社会貢献				1	
理学療法の専門性	D-1 社会の中の理学療法 (政策含む)	II-4 社会の中の理学療法 III-1 理学療法士と保険制度			1	
	D-2 生涯学習と理学療法の専門領域	III-2 生涯学習と理学療法の専門領域			1	○ H25.12. 8
	D-3 理学療法の研究方法論 (EBPT 含む)	II-1 学問としての理学療法と研究方法論			1	○ H25.12. 8
理学療法における人材の育成	E-1 臨床実習指導方法論	III-4 理学療法の教育方法論			1	○ H25.12. 8
	E-2 ティーチングとコーチング (コミュニケーションスキル含む)				1	○ H26. 2. 2
	E-3 国際社会と理学療法	III-3 世界の理学療法			1	
計					15	

○: 新人教育プログラムセミナー

読み替え: 研修部など他部所の実施した研修会の読み替えを示す



㊦ 社会福祉部 ㊦

社会福祉部は、社会資源を中心とした情報収集と情報提供を主な責務として、部長・部員合わせ5名で活動しています。

以前から奈良県理学療法士協会ホームページ上に、「社会福祉部便り」として、障害者自立支援法を中心とした各疾患別の内容を掲載して頂いております。25年度も、内容を新しくリニューアルし、25年度版とし掲載して頂く準備を部員全員で頑張りました。

患者さん・奈良県理学療法士協会会員の皆様には有益な情報になる様にといい作成しましたので、ホームページ上の「社会福祉部便り」を是非一度、目を通して頂いてください。

また部員も募集していますので、一緒に勉強しながら活動をしていきませんか？興味がありましたら、eichan_seibu@yahoo.co.jp まで、ご連絡お願いします。

㊦ 財務部 ㊦

財務部では以下の業務を中心に行っております。

- ①財産・会計業務
- ②予算・決算業務
- ③会費徴収業務
- ④資産管理業務
- ⑤公益法人会計業務

平成25年度から公益法人会計に移行しました。

会員の増加に伴い業務も煩雑となってまいりました。

会費徴収業務が円滑に進むように協会指定のクレジットカード（楽天）での会費納入を宜しくお願い致します。

▣ 研修部 ▣

研修部では、年に4回の研修会を企画、開催しております。テーマの偏りがないように各回、様々な分野で活躍されている講師に講演をお願いしています。通常の研修会であれば非常に高額な参加費が必要な講演を、会員であれば千円というお手頃価格で受講できることが最大の魅力です。会員の皆様が自らの専門性を高め、良質なサービスおよび学識の向上に貢献できるよう、今後も企画、運営に努めていきたいと思えます。会員の皆様も、奮って研修会へ参加していただきますようお願い致します。

なお、申込方法に関しては、現在のところ奈良県理学療法士協会のホームページに研修会専用の申込フォームがあります。簡単にエントリーできます。

【研修会の開催風景】



㊦ 学術誌部 ㊦

学術誌部部长 岡田 洋平

学術誌部は、学術誌「奈良理学療法学」を発刊することにより、広く一般の皆様が理学療法に関する学術情報を伝えることが主な活動であります。2008年の奈良理学療法学第1巻の発刊以来、毎年1巻発刊してきました。内容は、原著論文や短報、調査、症例報告、奈良県理学療法士学会での講演録や学会抄録となります。奈良理学療法学に掲載された内容は、国立国会図書館、「医学中央雑誌」や医学文献サービス「メディカルオンライン」への登録により、より広く一般の皆様が奈良理学療法学に掲載された情報を利用することが可能であります。

本年度も3月に奈良理学療法学を発刊する予定にしております。会員の皆様からの論文の投稿をお待ち申し上げております。どうぞよろしくお願いいたします。

㊦ 会員管理部 ㊦

部の名称のごとく県士会員の情報管理に関する事業を中心に、大和橿原病院を拠点とし以下の事業を行っております。

- ①会員管理事業（入会・異動・休会・退会）
- ②会員名簿作成事業
- ③挨拶状送付事業
- ④郵送事業
- ⑤慶弔に関する事業
- ⑥その他

昨年度より入会申請、異動申請、休会申請、退会申請、復会申請の紙での申請が廃止されております。

日本理学療法士協会ホームページ内の【マイページ】よりログインし、ご申請頂きますようよろしくお願いいたします。

マイページアドレス：<https://www.japanpt.or.jp/jpta/my/myLoginKaiin.html>

㊦ 介護保険部 ㊦

会員の皆様。平素は介護保険部の活動にご理解、ご協力頂きまして、ありがとうございます。25年度、介護保険部は講演会を2回開催いたしました。

まず、開催したのが『介護予防推進セミナー』です。介護予防推進セミナーとは、地域住人の心身の健康維持・増進を目的とした介護予防事業・地域支援事業へのセラピストの積極的な参加を促す為に、介護保険部で主催している講演会で、平成25年度で2度目となりました。テーマは『地域の特性から見た介護予防のあり方とセラピストの役割』としまして、講師に奈良県健康福祉部長寿社会課 課長補佐の井勝 昭彦様、秋津鴻池病院 リハビリテーション部 理学療法士の西田 宗幹 先生、西大和リハビリテーション病院リハビリテーション部 作業療法士の北別府 慎介 先生をお招きしてご講演頂きました。当日は理学療法士に限らず作業療法士、言語聴覚士の先生、行政職の方々にもご参加頂き、37名の参加者を集め開催されました。

続いて開催したのが、『地域包括ケアシステムへの取り組み ～それぞれの職種・業態に求められるもの～』と題しまして、大東市 保健医療部 地域保健課の理学療法士 逢坂 伸子 先生をお招きしての講演会です。来る地域包括ケアシステムの構築に向けて、関連する職種が各々どの様に対応していくべきかを、地元大東市で行政職として先駆的に取り組んでおられる逢坂先生にご教授頂きました。当日は理学療法士をはじめ、作業療法士、ケアマネジャー、地域包括支援センターなどの行政機関から主任ケアマネや看護師・保健師など、48名の方々にご参加頂きました。

もう一つ行った事業が、例年行っておりますデイケアおよびデイサービスに対するアンケート調査です。通所系のサービスが『何処で』『どの様な体制で』『どの様なサービスが』提供されているかを明らかにする事を目的として実施しています。25年度は、デイケア16施設とデイサービス5施設からの回答を得る事ができました。この情報は奈良県理学療法士協会のホームページへ掲載しておりますので、ご参考に、是非ご覧ください。

介護保険部はこれからも、地域の皆様、そして福祉・介護の働く多職種に対して公益性の高い事業展開を行うと共に、この分野で働く理学療法士の知識・技術の向上に努めて参りますので、よろしくお願い致します。

《開催事業》

『第2回 介護予防推進セミナー』開催

日 時：平成25年7月14日（日）

会 場：奈良県産業会館 会議室1・2

テーマ：地域の特性から見た介護予防のあり方とセラピストの役割

講 師：奈良県健康福祉部 長寿社会課 課長補佐 井勝 昭彦 様

秋津鴻池病院 リハビリテーション部

理学療法士 西田 宗幹 先生

西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部

作業療法士 北別府 慎介 先生

参加人数：37名

『平成25年度 介護保険部主催 講演会』開催

日時：平成25年11月10日（日）

会場：かしはら万葉ホール 研修室2

テーマ：地域包括ケアシステムへの取り組み

～それぞれの職種・業態に求められるもの～

参加人数：48名

医療保険部

医療保険に関する情報をできるだけ早く、正確に伝えることが医療保険部の活動です。

部員は、規模やタイプの違う施設から構成し、広い範囲から情報収集できる体制をとっています。

具体的な活動は、厚生労働省からの文書、協会からの連絡や会員からの情報の中から必要な情報を選んで土会ホームページを利用して広報活動を行い、2年ごとの診療報酬改定の際には情報交換会を開催しています。

会員の皆さんからの問い合わせにも対応していますが、根拠となる資料探しなどで、すぐに回答できないことが多いため、メールアドレスをご記入いただき、FAX（高井病院 江村宛 0743-65-5616）にて問い合わせ頂ければ後日、連絡させていただきます。

皆様からの問い合わせや、情報は貴重な資料となりますので、お気軽にご連絡ください。



㊦ 法人設立 20 周年記念事業準備委員会 ㊦

平成 24 年度より準備を進めてまいりました法人設立 20 周年記念事業が、関係機関、団体ならびに協会員の皆様方のご支援ご協力を得て下記の通り盛大に開催されました。

開催内容の詳細につきましては、今後発行されます記念誌をご覧ください。

法人設立 20 周年記念式典・祝賀会

開催日時 : 平成 25 年 1 月 17 日 (日) 午前 11 時～午後 3 時
会 場 : ホテル日航奈良 (奈良市)
参加者 : 記念式典 101 名 祝賀会 98 名

㊦ 選挙管理委員会 ㊦

改選時期において実施される日本理学療法士協会及び奈良県理学療法士協会での役員選挙に関わっています。地味な活動ではありますが課せられた仕事に対してこつこつと丁寧で遂行できるよう地道に頑張っていきますので今後共よろしくお願い致します。

㊦ 専門領域委員会 ㊦

専門領域勉強会は、奈良士協会の会員を中心に勉強会活動を定期的に行うことにより、会員間の情報交換や専門的知識・技術の向上を図る事を目的にしており、本委員会はその管理・支援をしています、構成員は各勉強会の代表者を含む 9 人です、現在下記の 7 つの勉強会が活動しています、いくつかの勉強会では、協会の履修ポイントの獲得もできるような研修会を県士協会と共催しています。

1) 呼吸器循環器系勉強会 代表：田平一行

活動内容

☆ メンバー各々が自分のテーマについて勉強し、必要に応じて症例や研究計画の検討、発表前の予演会、文献抄読などを実施した

- ☆ 活動日時：毎週火曜日 19:00-21:00, 合計 32 回 (H25.4 ~ H26.3)
- ☆ 参加人数 2 ~ 14 人
- ☆ 学会発表
 - 第 48 回日本理学療法士学会学術大会：8 演題
 - 第 49 回日本理学療法士学会学術大会：3 演題
 - 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会： 1 演題
 - 第 23 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会：7 演題
 - 第 68 回日本体力医学会：1 演題
 - 第 19 回心臓リハビリテーション学会学術集会：2 演題
 - European Respiratory Society Annual Congress 2013 in Barcelona：2 演題
 - 第 48 回日本理学療法士協会全国学術研修大会：3 演題
 - 第 39 回日本熱傷学会学術集会：1 演題
- ☆ 論文
 - ☆ ➤ Arizono S, et.al.: Endurance time is the most responsive exercise measurement in idiopathic pulmonary fibrosis. *Respir Care*. 2013 Dec 10. [Epub ahead of print].
 - ☆ ➤ Ide H, et.al.: Changes in sympathetic nervous system activity in male smokers after moderate-intensity exercise. *Respir Care*. 2013 Nov;58(11):1892-8
 - ☆ ➤ 田平一行：呼吸器系の生理, 上月正博 他編, 標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学, 医学書院, 東京, 2013, 158-171.
 - ☆ ➤ 徳田 光紀, 他：腹部外科手術後症例に対する経皮的電気刺激治療の効果 無作為化比較試験による検討. *理学療法科学* 28 (4): 415-421, 2013.
- ☆ 研修会の開催
 - タイトル：「吸引に関する講習会」
 - 共催：奈良県理学療法士協会, 呼吸器循環器勉強会
 - 日時：平成 26 年 2 月 8 日 10:00 ~ 16:30
 - 場所：畿央大学 C3 運動療法実習室
 - 講師：田平 一行 (畿央大学)
 - 増田 崇 (県立奈良病院)
 - 山科 吉弘 (藍野大学)
 - 赤壁 知哉 (市立奈良病院)
 - 参加者：21 名

2) 奈良整形外科リハビリテーション勉強会 代表：榮崎彰秀

活動内容

☆ 平成25年4月18日 第46回定期勉強会（定例会）

参加人数42名（奈良西部病院）

レクチャー：肩関節周囲の触診②（外側縁、関節下結節、烏口突起）

松永整形外科クリニック 清水恒良先生

症例検討：大腿骨頸部骨折術後の一症例

おかたに病院 堀正先生

☆ 平成25年5月16日 第47回定例会

参加人数38名（奈良県総合リハビリテーションセンター）

レクチャー：肩関節周囲の触診③（僧帽筋、肩甲挙筋、菱形筋）

平成記念病院 徳田光紀先生

☆ 平成25年6月8日・9日 共催：奈良県理学療法士協会，当勉強会

参加人数46名（大和高原ボスコヴィラ）

講義内容：股関節の評価及び治療

講師： 桑名西医療センター 松本正知先生

アシスタント講師： 鈴鹿中央総合病院 熊谷匡晃先生

伊賀市立上野総合市民病院 猪田茂生先生

吉田整形外科病院 近藤秀哉先生

☆ 平成25年7月18日 第48回定例会

参加人数28名（奈良西部病院）

レクチャー：肩関節周囲の触診④（小胸筋、前鋸筋、三角筋）

奈良西部病院 松田強史先生

☆ 平成25年8月22日 第49回定例会

参加人数30名（奈良県総合リハビリテーションセンター）

レクチャー：肩関節周囲の触診⑤

（鎖骨、靭帯（烏口肩峰、烏口鎖骨、肩鎖、前胸鎖、肋鎖））

松永整形外科クリニック 清水恒良先生

レクチャー：宿泊講習会 伝達講習

奈良西部病院 山田哲也先生

症例報告：橈骨遠位端骨折術後の一症例

奈良西部病院 榮崎彰秀先生

☆ 平成25年9月19日 第50回定例会

参加人数29名（奈良西部病院）

- レクチャー：肩関節周囲の触診⑥（大結節、小結節、結節間溝、大胸筋）
平成記念病院 唄 大輔先生
- レクチャー：宿泊講習会 伝達講習
平成記念病院 徳田光紀先生
- ☆ 平成25年10月17日 第51回定例会
参加人数29名（奈良県総合リハビリテーションセンター）
- レクチャー：肩関節周囲の触診⑦（広背筋、烏口腕筋）
平成記念病院 徳田光紀先生
- レクチャー：宿泊講習会 伝達講習
平成記念病院 唄 大輔先生
- 症例検討：T S Aの一症例
平成記念病院 大野 萌先生
- ☆ 平成25年11月21日 第52回定例会
参加人数34名（奈良西部病院）
- レクチャー：肩関節周囲の触診⑧（肩甲下筋、小円筋、大円筋）
奈良西部病院 松田強史先生
- レクチャー：宿泊講習会 伝達講習
奈良西部病院 山田哲也先生
- v 左脛骨高原骨折後の一症例
平成記念病院 城谷将輝先生
- ☆ 平成25年12月21日 第53回拡大定例会
参加人数22名（奈良県社会福祉総合センター）
- レクチャー①：肩関節周囲の触診⑨（棘上筋・棘下筋）
奈良西部病院 榮崎彰秀先生
- レクチャー②：T O Sの評価と運動療法
松永整形外科クリニック 清水恒良先生
- 症例検討：膝蓋骨骨折術後の一症例
おかたに病院 熊田直也先生
- ☆ 平成26年1月16日 第54回定例会
参加人数35名（奈良県総合リハビリテーションセンター）
- レクチャー：肩関節周囲の触診⑩（肩関節包靭帯）
松永整形外科クリニック 清水恒良先生
- 症例検討：大腿骨顆部骨折術後の一症例
奈良西部病院 松田強史先生

☆ 平成26年2月20日 第55回定例会

参加人数27名(奈良西部病院)

レクチャー：肩関節の触診①

奈良西部病院 松田強史先生

症例検討①：左脛骨高原骨折を呈した一症例

西の京病院 坂元健一先生

症例検討②：右上腕骨外科頸骨折の一症例

おかたに病院 岡田彰一先生

☆ 平成26年3月16日 平成25年度 特別講習会 後援：奈良県理学療法士協会

タイトル「足関節外傷の評価と治療 -整形外科医の視点から-」

「足関節拘縮の運動療法」「症例報告会2013」

参加人数73名(いかるがホール 研修室1~4)

特別講演①足関節外傷の評価と治療 ~整形外科医の視点から~

奈良県立医科大学 整形外科 谷口 晃先生

特別講演②足関節拘縮の運動療法

白庭病院 リハビリテーション科 久野剛史先生

症例報告会2013： 座長レクチャー3セッション・演題発表6演題

3) 発達障害児・者勉強会 代表：古川 智子

☆ 平成25年4月19日 19時~21時 関西学研医療福祉学院 南館

参加22名

内容「症例検討」担当 中谷充志先生

☆ 平成25年8月23日 19時~21時 関西学研医療福祉学院 南館

参加17名

内容「症例検討」担当 神野 渉先生

☆ 平成25年12月14日 19時~21時 関西学研医療福祉学院 南館

参加14名

内容「シーティングについて」座面製作実習

講師 やまと工房 竹上 隆先生

4) 3学会合同呼吸療法認定士取得に向けた勉強会 代表：坂本 雅尚

日時：毎月1回不定期の金曜日 19:30～21:00

場所：奈良県理学療法士協会事務所

	内 容	担 当
2月	スケジュール調整	
3月	呼吸管理に必要な解剖・生理	田岡先生（天理よろづ白川分院）
4月	呼吸不全の病態と管理	板橋先生、鶴谷先生（山の辺）
5月	血液ガスの解釈	石橋先生、福田先生（秋津鴻池）
6月	人工呼吸器の基本構造および人工呼吸とその適応	久保先生、前谷先生、渡辺先生（平成記念）
7月	予想問題解答と解説	坂本先生（平成記念）
8月	親睦会	
9月	肺機能検査	中野先生（天理よろづ白川分院）
10月	酸素療法・薬物療法	牛尾先生（奈良小南）
11月	模擬テスト	坂本先生（平成記念）
12月	試験問題の確認	

内容：呼吸療法認定士試験に向けて、講習テキストに沿い各メンバー持ち回りで勉強会を実施

試験結果：第18回3学会合同呼吸療法認定士試験 受験者5名、うち4名合格

5) スポーツ理学療法勉強会 代表者：福本貴彦

☆ 第1回勉強会

日時：2013年6月30日（日）13:30～16:30

場所：畿央大学 C棟3F 運動療法実習室

「サポート事業の説明と実績報告、確認事項について」

池田整形外科 相良優太先生

「サポートに必要なテーピング技術」

田北病院 岡田彰史先生、畿央大学 福本貴彦先生

参加者：25名

☆ 勉強会以外の取り組み

高校野球春季近畿大会奈良予選大会メディカルサポート

29名参加（うち他府県士会員7名）

高校野球全国選手権大会奈良予選大会メディカルサポート

41名参加（うち他府県士会員13名）

高校野球秋季近畿大会奈良予選大会メディカルサポート

31名参加（うち他府県士会員9名）

奈良マラソンのメディカルサポート

奈良マラソンのメディカルサポート勉強会

（スポーツ勉強会とは別枠で実施）

6) 健康増進・疾病予防・障害予防勉強会 代表：瓜谷 大輔

☆ 第1回勉強会

（日時）平成25年8月18日（日）13時30分～16時30分 畿央大学

（内容）「変形性関節症再生医療と予防戦略」

京都大学大学院医学研究科 准教授 青山朋樹先生

（医師・日本リハビリテーション医学会認定臨床医・専門医）

「糖尿病×運動器障害×心疾患の障害予防と理学療法」

奈良県立医科大学附属病院 田中秀和先生

（理学療法士・糖尿病療養指導士）

（参加者数）29名

7) リハビリテーション研究方法論勉強会 代表：小林 功

目 時	内 容	講 師	参加人数
H25/6/18	特別な機器がなくとも測定できる outcome measure の紹介（脳血管障害中心）	小林 功	15名
7/16	理学療法における科学性・研究法（総論・研究デザイン）研究計画の立て方・文献検索	川原 勲 森井 裕太	16名
8/20	シングルケーススタディの方法論	小嶋 康介	13名
9/17	予後予測研究	小林 功	11名
10/15	統計解析（基礎的な統計の知識/パソコンを使ったRの使用法の実際）：Rの基本操作・2群間の差・分散分析	森 拓也	7名
11/19	無料でできる動作解析（Image Jの使用法）	宮崎 尚也	8名
12/17	研究計画作成（健常人を対象にした基礎研究：運動学を中心に）	森井 裕太	9名
H26/1/21	Electromyography を使った計測（健常人を対象にした基礎研究：運動学を中心に）	澳昂 佑	8名
3/18	抄録の作成と検討・論文の構成・書き方	中谷 秀美	7名

㊦ 新人研修委員会 ㊦

委員長 和田 善行

新人研修委員会は免許取得後3年目までの新卒者を対象とした基本的な講習会を運営しています。

平成26年度は、以前の「呼吸・循環」コースを「呼吸器リハビリテーション」コースと「循環器リハビリテーション」コースに分け、全5コースの開催予定でいずれも系統だった講習会となっています。

平成25年度実績

1. 委員会開催 (4回開催)

2. なら新人研修システム 講習会開催

1) 「呼吸・循環」コース

平成25年5月15日～平成25年7月18日 (全10回) 19:00～21:00

畿央大学・エルトピア中和・高井病院

コーディネーター 和田 善行 (平成記念病院)

受講者28名 (修了証発行 15名)

講師 田平 一行 (畿央大学)

増田 崇 (県立奈良病院)

田岡 久嗣 (天理よろづ相談所病院 白川分院)

後藤 総介 (天理よろづ相談所病院)

大森 智香子 (高井病院)

和田 善行 (平成記念病院)

2) 「装具・車椅子」コース

平成25年9月4日～平成25年10月30日 (全9回) 19:00～21:00

畿央大学・奈良県総合リハビリテーションセンター・奈良県橿原文化会館

コーディネーター 梅本 康明 (奈良県総合リハビリテーションセンター)

受講者26名 (修了証発行 15名)

講師 梅本 康明 (奈良県総合リハビリテーションセンター)

伊藤 英登 (奈良県総合リハビリテーションセンター)

荒木 健 (奈良県総合リハビリテーションセンター)

太田 真介 (奈良県総合リハビリテーションセンター)

山田 哲也 (奈良西部病院)

松田 強史 (奈良西部病院)

西山 和夫 (川村義肢)

3) 「訪問リハビリテーション」コース

平成 25 年 10 月 31 日～平成 25 年 11 月 30 日 (全 6 回) 19:00～21:00

畿央大学・ウエルケア悠

コーディネーター 中谷 充志 (喜多野診療所 訪問リハビリテーション)

受講者 18 名 (修了証発行 11 名)

講師 増田 崇 (県立奈良病院)

中村 貴信 (介護老人保健施設 ウエルケア悠)

中谷 充志 (喜多野診療所 訪問リハビリテーション)

櫻井 公統 (介護老人保健施設 アップル学園前)

堀田 修秀 (介護老人保健施設 鴻池荘)

淵脇 崇 (土庫病院)

4) 「運動器リハビリテーション」コース

平成 26 年 1 月 15 日～平成 26 年 2 月 18 日 (全 6 回) 19:00～21:00

畿央大学・奈良県橿原文化会館

コーディネーター 久野 剛史 (白庭病院)

受講者 39 名 (修了証発行 20 名)

講師 榮崎 彰秀 (奈良西部病院)

久野 剛史 (白庭病院)



㊦ ブロック活動推進委員会 ㊦

今年度も地区別症例検討会の開催を中心に準備致しました。北和ブロックにおきましては多くの演題を応募頂き盛況に開催されました。中和ブロック、南和ブロックにつきましては演題数の兼ね合いより合同にて開催しました。

地区別症例検討会は今後も引き続き開催させて頂く予定となっております。施設を越えた相談や、日頃の臨床での悩みの解決が活発に行える場となりますよう準備してまいりますので、ご協力頂きますよう宜しくお願い致します。

北和ブロック症例検討会

(第1回)

日時：平成25年11月15日(金) 19時00分～21時00分

会場：関西学研医療福祉学院 南館1階ホール

演題：

- ♣ 「右大腿骨頸部骨折後に人工骨頭置換術を施行し、歩行改善に着目した症例」

八剣 誘起 (高の原中央病院)

- ♣ 「軟球から硬球に変わりフォロースルー期に右肩関節痛を呈した症例」

上野 裕史 (西奈良中央病院)

- ♣ 「食事動作における前方リーチ動作の安定性が低下した右広範囲腱板断裂術後の一症例」

村田 早希 (西奈良中央病院)

- ♣ 「左人工膝関節全置換術後、歩容改善に着目した症例」

高山 耀介 (高の原中央病院)

- ♣ 「重度な半側空間無視を呈した症例を経験して」

大野 裕司 (西の京病院)

- ♣ 「重度注意機能障害に対する理学療法アプローチの経験」

北井 梨恵子 (東生駒病院)

参加者：45名

(第2回)

日時：平成25年11月22日(金) 19時00分～21時00分

会場：関西学研医療福祉学院 南館1階ホール

演題：

♣ 「左人工膝関節置換術後に跛行を生じた患者の歩容改善に着目した症例」

古川 晃平 (高の原中央病院)

♣ 「T字杖歩行後に腰背部痛が出現し歩行獲得に難渋した症例」

上野 真幸 (高の原中央病院)

♣ 「人工足関節全置換術を施行した症例

～術後のボトムアップ評価から非術側に着目して～」

稲葉 聡 (西奈良中央病院)

♣ 「再梗塞により歩行障害を呈した症例」

丸山 宗一郎 (東生駒病院)

♣ 「再梗塞を繰り返した1症例について」

平田 康介 (東生駒病院)

♣ 「脳卒中片麻痺患者に高速エルゴメーターを試みた一症例報告」

小堀 称津貴 (阪奈中央病院)

参加者：44名 (うち学生10名)

～印象記 北和ブロック症例検討会の発表を終えて～

今回、人工足関節全置換術を施行した症例～術後のボトムアップ評価から非術側に着目して～を発表させていただいた。

今回はボトムアップ評価を行ったうえでの発表であり、初めての試みであった。ボトムアップ評価の発表を行いたいと思ったきっかけは、評価から動作を予測しリハビリテーションを行うボトムアップ評価に難しさを感じたからであった。特に、完全免荷時に評価を行い荷重開始時の動作を推察して行うリハビリテーションに難しさを感じた。

今回の発表の難しさは、7分間の発表の中でボトムアップ評価を行わなければならない理由を伝え、評価から推察される動作を伝えることであった。評価から今後の動作で生じる問題点を伝えることは、写真などの視覚的情報で伝えることができないため、症例を理解してもらうという点で難しさを感じた。

発表を終えて、多数の質問やご指導をいただいた。質問内容や指導内容が症例の全体像を把握してのものが多数あったため、症例を理解していただけたと感じた。

最後に、症例研究に協力してくださった患者様に感謝をするとともに、今回の経験を活かし、今後の臨床に還元していきたいと考える。今後も症例発表や研究発表を行い、自己研鑽に励みたいと考える。

報告者：西奈良中央病院 リハビリテーション科 稲葉 聡

中和・南和ブロック症例検討会

日 時：平成25年11月20日（水）19時00分～21時00分

会 場：かしはら万葉ホール 研修室2

演 題：

♣「THA 術後、防御性収縮による他動運動困難な患者への理学療法」

伊藤 泰裕

(天理よろづ相談所病院白川分院)

♣「拡張型心筋症合併されている、右皮質下出血の症例」

小林 祐一 (大和橿原病院)

♣「左大腿骨転子部骨折に対し、左 Gamma nail 術を呈された一症例」

栗牧 晃司 (平成記念病院)

♣「右変形性膝関節症を呈され右 TKR 術を施行された一症例」

竹森 澄子 (平成記念病院)

参加者：47名

🍷 奈良マラソンメディカルサポート委員会 🍷

理学療法士として奈良マラソン2014に参加する

奈良マラソンメディカルサポート委員会

委員長 福本貴彦 (畿央大学)

我々、奈良マラソンメディカルサポート委員会は、2011年大会よりメディカルサポートスタッフとして大会実行委員より委託され、第7救護所でのサポート活動を行っています。

主な内容は、痙攣に対するストレッチとテーピング、また簡単な創傷処置とリタイア選手のフォローです。

痙攣に対する処置は、我々理学療法士の腕の見せ所です！大会前からの体調の問診、当日の様子、患部の理学所見など総合的に考えてサポートを実施します。選手はストレッチのみ実施して軽快する方、経口補水液を使用し、患部にテーピングを施行することでレース復帰できる方など様々です。2013年大会も24名の理学療法士がテントにつめ、80名余りの選手に日々臨床で培った技術で処置を行いました。

2012年大会までは救護所と我々のサポートブースは別枠で考えられておりました。したがって、我々では手におえない創傷や、リタイア選手が出た場合は、我々のテン

トからすぐ近くとはいえ、救護所まで移動してもらわないといけない状態でした。逆に、救護所で創傷の処置中に痙攣が始まり、『ただ絆創膏をもらいに来ただけなのに走るのをやめた途端に足がつり始めて、結局レースに復帰できなかったよ…』などといった話を聞くこともありました。しかし、2013年より、救護所の医師と連携し、まずは医師と私によってトリアージを行うことになりました。これにより選手は症状により救護所で医師もしくは看護師の処置が必要なのか、我々理学療法士の処置が必要なのか、はたまた同時進行でケアを行うのかなどの確かなサポートが可能になりました。トリアージ後の処置風景をみると、救護所がさながら小さな病院にみえます。医師、看護師、そして理学療法士がそれぞれの役割で選手一人一人に的確な処置を行う。私が考える理想の形が、この小さな小さな2梁のテントの中で実現しました。

現在は2014年大会の準備を進めております。

今年度からは今までの第7救護所のみではなくスタートとゴール地点である鴻池グランドにも理学療法士を配置してほしいとの依頼が来ております。メディカルサポート委員の委員長としての重責に不安もありますが、そこは理学療法士として、ますます腕が鳴るところです。

この活動は私一人が理学療法士として動けば成り立つような仕事ではありません。会員皆様のお力を貸してください。

奈良マラソン2014にはぜひ理学療法士として

参加してみませんか？

(公社) 奈良県理学療法士協会主な開催行事

平成 25 年

開催日時	行事内容
4月13日(土)	第1回定例理事会
5月1日(水)	特別研修会 「リハビリテーションの現状と今後について」
5月15日(水)～ 7月18日(木)	なら新人研修システム「呼吸・循環」コース
5月18日(土)	第20回定期総会 第2回定例理事会
6月2日(日)	第1回新人教育プログラムセミナー
6月8日(土) 9日(日)	奈良整形外科リハビリテーション勉強会 「股関節障害に対する機能解剖学的評価及び治療」
6月30日(日)	第23回奈良県理学療法士学会
7月6日(土)	第3回定例理事会
7月14日(日)	第2回介護予防推進セミナー
7月20日(土)	理学療法士講習会
7月28日(日)	第1回研修会
8月25日(日)	第2回新人教育プログラムセミナー
9月4日(水)～ 10月30日(水)	なら新人研修システム「装具・車椅子」コース
9月7日(土)	第4回定例理事会
9月8日(日)	第21回公開講座
10月19日(土)	第5回定例理事会
10月20日(日)	第2回研修会
10月31日(木)～ 11月30日(土)	なら新人研修システム 「訪問リハビリテーション」コース
11月8日(金)	PTOTST ボーリング大会
11月9日(土)	第6回定例理事会
11月10日(日)	平成25年度介護保険部主催講演会
11月15日(金)	第1回北和ブロック症例検討会
11月17日(日)	法人設立20周年記念式典・祝賀会
11月20日(水)	中和・南和ブロック症例検討会
11月22日(金)	第2回北和ブロック症例検討会
12月7日(土)	第7回定例理事会
12月8日(日)	第3回新人教育プログラムセミナー 奈良マラソンメディカルサポート
12月15日(日)	第3回研修会

平成 26 年

開催日時	行事内容
1月15日(水)～ 2月18日(火)	なら新人研修システム 「運動器リハビリテーション」コース
1月17日(金)	新年会
1月18日(土)	第 8 回定例理事会
2月 2日(日)	第 4 回新人教育プログラムセミナー
2月 8日(土)	吸引に関する講習会
2月 9日(日)	第 9 回定例（拡大）理事会
3月 8日(土)	第 10 回定例理事会
3月21日(金)	大阪城リレーマラソン参加

院所・施設紹介

奈良県総合医療センター

理学療法士 門脇明仁

県立奈良病院は2014年4月1日をもって「地方独立行政法人奈良県立病院機構奈良県総合医療センター」に名称と組織形態が変わりました。これは県立奈良病院と県立三室病院、奈良県総合リハビリテーションセンターの3つの病院が1つの独立行政法人になり、それぞれの病院の特性を活かし更なる発展を期するものです。県立奈良病院は奈良県総合医療センターに、県立三室病院は奈良県西和医療センターにそれぞれ名称が変わりました。

これまでの組織と違い独立行政法人になったことで様々なバージョンアップが期待されています。中期目標として「断らない救急の実現」「質の高いがん医療」「周産期医療体制の強化」「小児医療体制の整備」「リハビリテーション機能の充実」「高齢者を対象とした医療体制の整備」「新病院整備の推進」などがあげられています。また職員数はこれまで地方公務員の定員枠に縛られていましたが、医療センターの診療の必要度に応じた採用ができるようになります。また医療環境や医療機器も法人の経営実績に基づいて整備できるようになります。このように法人の特性を活かした自由度が広がり、リハビリテーション部内でも今後に大きな発展を期待し、また新たな希望も見え始めています。

奈良県総合医療センターは奈良市平松にあり、最寄り駅は近鉄尼ヶ辻駅です。駅からセンターまで10分少々歩きますが、途中に垂仁天皇陵があり自然がいっぱい、四季を楽しみながら歩けます。診療科は整形外科、脳神経外科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、救急科など21科あり、病床数は430床です。北和地域では一番大きな医療機関になります。

リハビリテーション部のスタッフは医師1人、理学療法士6人、作業療法士1人、看護師2人です。急性期医療が主体のリハビリで、脳卒中などの患者さんは転院することが多く、退院まで寄り添うことができないのが残念です。しかし急性期医療が理解できると、主治医の治療方針やリスク管理、チーム医療としての他職種の考え方がわかってきます。最近「急性期リハビリはちょっと苦手」という新卒者が増えていると聞きます。急性期がわかると疾患特性やリスク管理能力がアップしますので、嫌がらず目を向けていただけたらありがたいです。当センターは意欲のある方は大歓迎ですので、機会がありましたらノックしてみてください。

いま取り組んでいる分野に心臓リハビリテーションがあります。日本心臓リハビリテーション学会ホームページに記載されている「心臓リハビリテーションが受けられる施設」に、奈良県で唯一当センターが記載されています。入院患者は週に5回、外来患者は週に2回とまだ少ないですが受け入れています。外来日は循環器内科の医師と看護師、理学療法士が患者4人を同時進行で1時間の運動療法を実施しています。患者さんからの評価は上々で、動くことに自信がでてきた患者さんが多くなっていま

す。またこのアウトカムを担当者がいずれ報告すると思しますので、見ていただけたら幸いです。しかしまだ人的にも設備面でも発展途上ですので、今後力を入れていきたい分野になっています。

最後に新病院について紹介します。当センターは平成 28 年度に新病院を建設します。場所は奈良市石木町、唐招提寺や薬師寺の近くで 500 床程度の施設を建設する予定になっています。そのときには 365 日リハビリを実施し、急性期医療にさらに特化したリハビリテーションを展開することになります。ストロークケアユニットへの PT と OT 配置や、病棟にサテライトリハビリ室を配置するなど、新たな取り組みを視野に入れて準備をしていくつもりです。また医療連携にしっかりと取り組み、会員の皆様の支援を得ながら発展していきたいと考えています。



市立奈良病院

＜当院のICUにおける超急性期リハビリテーションについて＞

理学療法士 赤壁 知哉

市立奈良病院は奈良市の中心地から南に位置し、少し歩けば古い町並みが数多く建ち並ぶ「ならまち」があり、院内からは興福寺の五重塔、若草山を望むことができる場所にあります。平成24年12月には新病院が完成し、手術室を8床に増床し、集中治療室(intensive care unit:以下、ICU)8床と緩和ケア病床10床を新設して350床となり、より高度な医療を行える体制を取っています。ICUでは人工呼吸器や補助循環装置など高度な医療機器を必要とする重症な呼吸器・循環器疾患や、胸部・腹部手術後、脳血管疾患など嚴重な全身管理を必要とする方の受け入れを行っており、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士など多職種が関わり、早期回復 へ向け連携を取っています。

リハビリテーション部門では理学療法士13名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、助手1名の計25名のスタッフを揃え、急性期リハビリテーションを提供しています。これまでも重症肺炎や周術期のリハビリテーションを行ってきましたが、ICUでは

より専門的な知識が必要であり、他部門と密に連携を取っていくために、理学療法士5名でICU専任チームを作っています。日・祝祭日を除く週6日、一日に午前・午後の2回理学療法を行い、処方当日から提供できるような体制を取っています。また毎日カンファレンスを行い、患者の変化に合わせて柔軟な対応がで



【新・市立奈良病院の様子】



【当院のICUの様子】



【当院のリハビリテーション室スタッフ】



【ICU チームのカンファレンスの様子】

を理解して頂いています。訓練の際は看護師がいつも同席し、モニタリングやルート類の管理、介助の補助を行って頂き、医師はリハビリテーションの状況に応じて鎮痛・鎮静薬の調整や人工呼吸器の設定変更など、細かな状況変化に応じて環境を整えて頂いています。このように訓練が安全かつスムーズに進むよう、多くのスタッフの協力により、人工呼吸器装着中であっても腹臥位療法や、座位訓練や歩行訓練を行うことが出来ています。

また、一般病棟へ転出後も継続的な呼吸ケア・リハビリテーションを行って頂くために、ICU 専従医師を中心として、医師 3 名、呼吸療法認定士 6 名（うち理学療法士 2 名）で呼吸ケアチームを作り、院内スタッフ対象とした勉強会を開催しています。まだ開始したばかりの勉強会で院内に浸透していくのはこれからだと思いますが、少しでも患者様が最適な呼吸ケア・リハビリテーションが受けられるように継続していきたいと思っています。

ICU における超急性期リハビリテーションは他職種連携がとても重要であり、患者様が改善されていく喜びを他部門と共有していることを実感できる分野だと思います。当院の ICU ができて 1 年しか経っていませんが、リハビリテーションの必要性を理解され、協力して頂いていることを非常に嬉しく思います。まだ手探り状態で他部門から教えて頂くことも多いですが、お互い理解を深めながら理学療法の専門性を活かせるように形を作っていきたいと思っています。いつも緊張感がある環境の中、理学療法士は何ができるかを考え、今日のリハビリが患者様の将来の QOL につながるという責任感とやりがいを感じながら、ICU の一部門として携らせて頂いています。

きるようにしています。

ICU における理学療法は、ポジショニング、排痰、早期離床が主であり、超急性期から理学療法介入をする効果としては、身体機能の改善、せん妄の予防・改善、人工呼吸器からの早期離脱、ICU からの早期退室、早期退院、QOL の改善などが報告されています。当院においては、ICU には専従の医師が 1 名在籍し、リハビリテーションの重要性



【呼吸ケアチーム主催の勉強会の様子】

榎原リハビリテーション病院



施設の周辺環境

榎原市内であり、屋内から大和三山に囲まれて、のどかで、緑豊かな環境のもとリハビリを行うことができます。施設内は窓が大きく、朝日や夕日を眺めることができます。



施設の規模

医療療養型病棟 205 床

診療科目

内科、リハビリテーション科

施設基準

- ・脳血管リハビリテーションⅡ・Ⅲ
 - ・運動器リハビリテーションⅡ
 - ・呼吸器リハビリテーションⅡ
- 上記の基準にて行っております。

人員構成

理学療法士常勤 7 名
作業療法士常勤 4 名、非常勤 1 名
言語聴覚士非常勤 1 名
マッサージ師 2 名
リハビリ助手 1 名



理学療法士平均年齢

平均 25.5 歳

特に力を入れている分野、対象疾患、業務など

< 病棟 >病棟生活における QOL の向上を目標にリハビリテーションの充実を図るよう行っています。

脳血管疾患が多く、整形疾患や内科疾患の患者様も 2 割程です。

入院された患者様に対し、カンファレンスを実施しており、ポジショニングや病棟内 ADL に関わり、身体機能の維持だけでなく、改善できるよう介入するよう努めています。

< 訪問リハ >同法人の訪問看護ステーションから訪問リハビリテーションを携わっています。訪問地としては山間部が多いため、それぞれの地域に合わせた関わりを重視し、患者様のニーズや QOL の向上を目的に行っています。病棟リハビリと訪問リハビリの両方に携わることが出来るのが特徴です！！

他の院所、施設等には珍しい事業等

当グループ（ホロニクスグループ リハビリテーション部）内にて分野別のグループ分けを行い、知識、技術向上に努めています。そのため、専門性を活かした治療介入を行えるよう、勉強会はグループ内・院内・科内と様々な分野の勉強会に参加することが可能です。

職場の雰囲気、モットー、PR など

少人数ですが、活気のある明るい職場です！！コミュニケーションがとりやすく、笑いが絶えない様に心掛け、スタッフ、患者様へのひとりひとりへのサポートが出来る環境に努めています。

院所、施設内、部署内でユニークな福利厚生など

年間取得休日日数多いため、勉強会への参加やプライベートの充実に活用しやすいです。



協会員の活動紹介

『地域の健康増進・介護予防へ関わる 活動の紹介と「予防のススメ」』

畿央大学健康科学部理学療法学科 高取克彦

1. 奈良県および市町村事業に関わる事になったきっかけ

奈良県の事業に関わらせて頂くことになったきっかけは、「奈良県健康長寿共同事業」¹⁾への参加となります。この事業は県と後期高齢者広域連合の共同事業として平成23年度に誕生し、現在4年目を迎えております。高齢者の健康維持・増進に向けて、他府県では実施されていない新しい取り組みを展開することを特徴としています。事業は「地域巡回指導・普及啓発事業」と「取組方策研究事業」の2つの柱で組み立てられており、前者は地域包括ケアシステムを推進するための「専門人材が地域のニーズに応じて高齢者の健康維持・増進に向けた指導・普及啓発」を目的に県内多くの市町村において巡回型の健康増進・介護予防教室またはイベントを実施しています。

後者の取組方策研究事業では医師、歯科医師、大学関係者、保健師、高齢者で構成される有識者会議が設置され、「食べる能力の向上と社会参加の促進」をテーマに誤嚥性肺炎予防・転倒予防を最終目的とした奈良県オリジナル体操の策定が進められています。この体操は主に虚弱高齢者を対象として、従来の口腔周辺の運動だけでなく、随意咳嗽力の強化や下肢筋力、身体バランス向上のための全身運動を含んだものというコンセプトを持っており、口腔・嚥下に関わる項目は言語聴覚士に、バランスなどの全身運動項目を理学療法士にという事で体操策定ワーキンググループとして参加依頼を頂きました(下表)。コンテンツはすでに完成しており、今年度半ばには正式にリ

オリジナル体操策定ワーキンググループ(平成26年4月現在)		
理学療法士	高取克彦	畿央大学
理学療法士	松本大輔	畿央大学
理学療法士	西田宗幹	秋津鴻池病院
言語聴覚士	松下真一郎	奈良県総合リハビリセンター

リースされる予定となっています²⁾。

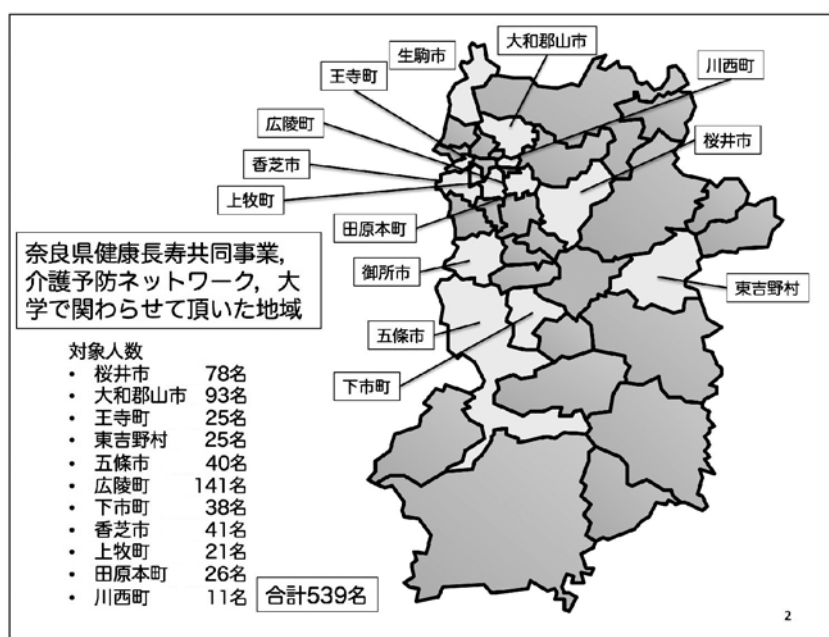
いわゆる「ご当地体操」は全国に無数に存在し、奈良県においても多くの体操がすでに存在しています。ですが、これらの殆どは体操作成そのものが目的化しており、体操の効果を示している物は皆無に等しい状態です。本体操では「一定の効果が認められた状態」でリリースすることを絶対条件としてプレリリース版による効果検証を

先に実施することとしました。

体操導入には県内複数の市町村介護予防教室，自主サロン，運動教室などにご協力頂き（下図参照），一定の効果を示せる様になってきました。また，体操導入のみの関わりでなく，非導入地域においても今後の介護予防の方向性や客観的評価の重要性などについて各市町村介護予防担当課および地域包括支援センターと相談させて頂く機会が増えて来ています。

2. 市町村事業への関わり

平成 24 年 6 月に奈良県健康長寿共同事業主催で市町村介護予防担当者を対象とした「転倒予防推進セミナー」にて，転倒予防の重要性と奈良県における介護予防事業の現状についてお話させて頂く機会がありました。セミナーは国立長寿医療センターの鳥羽先生によるご講演が中心でしたが，セミナー終了時にアンケートで参加者（主に保健師）に今後，体操導入への協力を頂けるか，また大学と介護予防について連携が可能かについて聴取させて頂きました。その後，回答頂いた市町村へ具体的な関わり方（体操導入としての関わり，または大学との関わり）について地域包括支援センターを中心に話し合いの場を作って行きました。その結果，各地域の特性に合わせた



形で体操導入地域については主に二次予防事業の中への組み込み，非導入地域においては主にサロン参加者の身体機能評価と運動指導という形で関わっています。

3. 介護予防教室への関わりを通して見えて来た様々な課題

市町村の地域包括支援センターとの話し合いの中で，現状の介護予防の課題や今後

現場で感じる介護予防の課題
1. 効果検証作業が十分に行われていない
2. 参加者は健康意識の高い元気な方が多い
3. 新規参加者がなかなか集まらない
4. 教室終了後のフォローアップが十分に行われていない
5. 行政への依存度が高く、自主グループへの移行が難しい
6. 介護予防対象者と見なされることへの抵抗感が強い
7. 男性の参加者が圧倒的に少ない

の方向性について多くの意見交換をさせて頂いたところ、いくつかの共通した課題が浮かび上がってきました。厚生労働省の介護予防マニュアル³⁾にも明記されているものもありますが、現場を回って感じる主な課題を表にまとめると以下の様になります。

中でも運動機能や生活機能、事業参加者の要介護認定率の減少などの客観的評価による効果検証作業が十分に行われていない地域が多い事は大きな問題と感じました。これには一地域における参加者が少数である事が多いため、信頼性の高い解析結果が出にくい事、長期的効果を捉えるためのフォローアップシステムが確立しにくい事、地域包括支援センターのマンパワー不足といった問題が大きな原因になっているものと考えられます。

4. 地域包括ケアシステムの中での介護予防とリハビリテーション専門職の必要性

世界でも有数の長寿国である我が国においては、高齢者の健康寿命をいかに延伸させるかが大きな課題となっており、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、地域包括ケアシステムの構築が急務となっています。この背景には①要介護者の増加による介護保険給付費の膨張、②医療依存度の高い高齢者増加による医療保険給付費の膨張にあります。これに対する国家戦略が「社会保障と税の一体改革」であり、具体的には社会保障財源の確保（消費税率、介護保険料見直し）と社会保障費の削減（在院日数短縮、在宅限界点の引き上げ、介護予防の推進）となります。

これらの事から、高齢者が要介護状態となることを予防することは、医療・介護ニーズの膨張を食い止める水際対策として非常に重要であることは言うまでもないことだと思います。今後の方向性として国は入院医療におけるリハビリテーション提供期間を大幅に短縮する構図を描いており、回復期リハビリテーションと同水準のリハビリテーションを在宅で提供できる体制の実現を目指しています（デイホスピタル）。これにより介護保険領域における我々の職域は一気に拡大することになりますが、同時にそれまでに基盤が整備されている必要があります。回復期リハビリテーション病棟の

入院期限は30日までで短縮されることが予測されており、従来、入院リハビリテーションが必要とされてきた方々を在宅で支える仕組みが求められることとなります。またADL再獲得、社会復帰を目的としたリハビリテーションに加えて、疾患の再発予防（三次予防）という役割が今後さらに求められることになると思われます。

地域包括ケアに向けて国が充実・強化していく施策の中で介護予防、地域ケア会議は重要な位置を占めており、今後、我々リハビリテーション専門職がしっかりと関わる事が期待されています。昨年11月27日に厚生労働省が理学療法士の名称使用について、介護予防事業や転倒防止の指導等の診療の補助に該当しない範囲の業務など理学療法以外の業務においても「理学療法士」の名称使用を認め、これらの業務に医師の指示が不要である旨の通知（医政医発1127第3号）を出した事は記憶に新しいと思います。このある意味異例な通知は我々に今後より積極的に介護予防領域に関わることを国が期待している事を明確に示しています。

5. 我々はどのように関わっていくべきなのか

我々の介護予防事業への関わり方についてはいくつかのパターンに分かれます。第1は市町村からの委託を受け、予防教室の主たる運動指導者として関わる場合、第2

介護予防・健康増進領域において理学療法士に求められる役割
・介護予防教室などにおいて、参加者の直接的な運動指導者としての役割
・事業評価のために運動機能・生活機能を客観的に評価する評価者としての役割
・地域の介護予防・健康増進について市町村と協働して企画・立案する役割

に教室前後の参加者の身体機能評価を行う評価者として関わる場合、第3は介護予防のあり方について市町村と協働して企画・立案する役割、またデータを分析する研究者としての役割もあります。

個人的にはこの中でも第2、第3の役割が特に重要だと考えています。二次予防事業対象者（虚弱高齢者）の殆どは腰痛・膝痛など身体のどこかに疼痛や運動障害を抱えており、運動指導に際しては適切な評価を実施する必要があります。また奈良県の現状では地域包括支援センターにリハビリテーション専門職がどこにも配置されていないことから、運動プログラムのあり方や対象者に運動習慣を定着させるための戦略を健康運動指導士や保健師、市町村担当課職員など多職種と連携して実動するコーディネーターとしての役割は今後さらに重要となって来ると思われます。

一方で、教室の主たる運動指導者として理学療法士が教室そのものに関わる事の有効性も実感しています。これには上述しました関節疾患、代謝系疾患、心疾患を持つておられる方々への適切なリスク管理と個別対応が可能な職種はリハビリテーション

専門職しかいないと感じているからです。これとは逆に集団に対する運動指導や、レクレーション的要素の取り入れ方、教室そのものの楽しさを向上させる手法に関しては、我々よりも健康運動指導士や音楽療法士の方々の方が高いスキルを持っておられると感じています。これらのことを踏まえると、地域に合わせた介護予防計画のプランニング、参加者の個別評価、評価結果に基づいた適切なフィードバック、事業効果の検証に関してはリハビリテーション専門職が適切なタイミングかつ経年的に関わり、運動実践部分に関しては他の運動指導専門職と住み分けて協業することが望ましいのではと考えています。

奈良県は北部の都市部と南部の山間部では地域特性が全く異なり、都市部での介護予防スタイルをそのまま山間部に当てはめる事はできません。山間部では高齢化率が40%近い地域が多く存在し、またリハビリテーション専門職がほとんど存在しないところもあります。こういった医療資源そのものが不足している地域に対しては介護予防領域に関心の深い理学療法士・作業療法士が相互支援ネットワークを形成し、アウトソーシングすることで評価・運動指導できる地域が増えるものと考えられます。このネットワーク構築にむけて、現在、有志グループ「奈良県介護予防ネットワーク」⁴⁾の活動を行っています。

地域での活動の様子



6. 事業に関わる面白さと参加のススメ

事業に関わる事のやりがい、面白さは一言で表現すると介護予防は高齢者の健康寿命延伸という地域貢献，社会保障費削減との両面から「社会貢献度」が高い活動であるということになります。また将来の我々の職域を拡大するための基盤作りという意味ではこれから地域に出られる理学療法士への架け橋になるかもしれません。

県内の複数の地域に関わらせて頂くと，その地域特性，住民性などが様々であることが実感できますし，その地域に適したモデル作りを地域の保健師など多職種と協働しながらリハビリテーション専門職として関わらせて頂く事は非常にやりがいがあります。地域包括ケアの中で，医療と介護，福祉の連携を考えて行くと，一見，関連の無いように思われる高齢者と児童との世代間交流や文化教室，サロンなどもアイデア次第で介護予防的な視点でアプローチすることができると思いますし，町づくりに理学療法士ならではの発想を加える事などができれば面白いのではと考えています。また現在，日本理学療法士協会も「重点的人材育成事業」により，介護予防や地域リハビリテーションを実践されている方を「地域包括ケア推進リーダー」「介護予防推進リーダー」として認定する方向で動き始めています⁵⁾。

介護予防は現在1つの転換期を迎えており，効果に対するエビデンスが求められて来ています。国立の研究センターなどが中心となり，大規模な研究成果が報告されるようになってきていますが，その介護予防の有効性に関するエビデンスの中に「理学療法士が関わっていた」という証拠作りをしっかりと行って行く事が重要だと思います。また今後の大きな方向性としては我々が直接的に運動指導者として関わるだけでなく，元気高齢者を介護予防サポーターとして養成し，地域の力を高めるという役割が求められてきています。

普段，病院や施設勤務している理学療法士が主たる運動指導者として関わる場合では，市町村が勤務施設へ事業委託し，業務として関わる事が望ましいと思いますが，地域支援に出る事に理解が得られにくい場合は勤務外の活動として関わるしかないのが実情だと思います。ですが，老健施設やデイケア，訪問リハビリテーションなど介護保険下でのリハビリテーションに関わっておられる理学療法士は地域包括ケアの中で今後ますます市町村との連携が必要になってきますし，今年度から実施される地域ケア会議にも出席する機会が増えることが予想されますので，是非積極的に関わって頂きたいと思います。また現在，これまで関わらせて頂いた地域から前述しました様々な形で理学療法士に関わって欲しいという要望が来ております。これらは単発の介護予防普及啓発事業からロコモ予防，認知症予防教室，地域のサロンへの支援など多岐に渡ります。一度，地域に出てみたいという希望をお持ちの方はご相談頂ければと思います。

7. 地域の課題は地域で解決

地域包括ケアシステムの中では「地域の課題は地域で解決する」という考えがベースにあります。従いまして、介護予防事業や地域ケア会議への参加は理想的には地元のセラピストが関わるべきであることは当然のことと言えます。ですが、事業の効果検証を行っていくためには一地域の経過を追うだけではかなり限定的な結果しか示す事ができません。介護予防事業の効果は大枠では明らかにされつつありますが、運動機能向上だけに限定しても、依然、どのような運動種目をどれだけの量、どれだけの頻度・期間で行えば良いのかははっきりしていません。現状では市町村によって実施されている教室の回数や頻度は異なり、週1回を3ヶ月間のものもあれば隔週で6ヶ月実施されているところ、または年間を通じてエンドレスで行われているところなど様々です。運動種目に関しても座位のレクリエーション体操を中心に実施されている教室からマシントレーニングを積極的に取り入れている教室、または音楽療法を主体に実施されている教室まで様々です。事業スタイルに色々なバリエーションはあって良いと思いますが、逆に捉えると「いったい何が良いのかわからない」という混乱した状況になりがちですので、有効性については地域間比較が必要だと思えます。これらの事を考えると、評価尺度の統一と情報交換は必須になります。すでに地元の事業に参加されている方も少なからずいらっしゃると思いますが、適正な事業計画を市町村と検討する際に、我々がデータを提示して教室スタイルなどを提案できる様に、ぜひ情報交換・共有できるネットワーク構築にご協力頂ければと思います。

8. 今後の目標

最後に個人的な話になりますが、たまに今後の目標や目指すところを聞かれることがあります。そのときは「できるところまで」と答えています。最近では1人の理学療法士として自身のゴール設定を考える様になりました。この三年間主に地域で活動させて頂いたおかげで、理学療法士としての色々な可能性が見えてきた様な気がします。特に奈良県ではまだまだ我々セラピストが関わっていける、もしくは変えていける領域が沢山あると思います。医療・介護・福祉にまたがる重要な専門職として、色々な領域への架け橋になればと思っています。



参考資料

1. 奈良県健康長寿共同事業実行委員会ホームページ.

<http://www.pref.nara.jp/26016.htm>

2. 奈良県健康長寿応援サイト「すこやかネットなら」.

<http://www.sukoyakanet.pref.nara.jp/oyakudachi/undou/kenkoutyouju.html>

3. 厚生労働省介護予防マニュアル(改訂版:平成24年3月).

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/tp0501-1.html>

4. 奈良県介護予防ネットワーク.

<https://www.facebook.com/kaigoyobonetwork>

5. 公益社団法人日本理学療法士協会ホームページ.

http://www.japanpt.or.jp/lifelonglearning/jinzai_ikusei/

平成25年度受賞者紹介

1. 医療業務等功労者奈良県知事表彰
2. (公社) 奈良県理学療法士協会 功労賞
3. (公社) 奈良県理学療法士協会 学術奨励賞
学会長賞 新人賞
4. 感謝状

ここでは平成 25 年度に表彰された本会会員ならびに感謝状を贈呈された賛助会員を紹介し、改めてその栄誉を称えます。

医療業務等功労者奈良県知事表彰受賞者



県立三室病院
下出 好夫 会員



田北病院
竹田 明 会員



濟生会奈良病院
枋岡 佳樹 会員



関西学研医療福祉学院
古川 智子 会員

(公社) 奈良県理学療法士協会 功労賞



奈良県立五條病院
北村 亨 会員



介護老人保健施設
鈴木 健夫 会員



济生会御所病院
中俣 悦雄 会員



奈良西部病院
長岡 誠吾 会員

(公社) 奈良県理学療法士協会 学術奨励賞

学会長賞



平尾病院

高松 秀行 会員

新人賞



天理よろづ相談所病院

岩佐 精志 会員

本会より感謝状が贈呈された賛助会員の皆様

(写真は法人化 20 周年記念式典・祝賀会にご出席頂いた方々です)



株式会社 イカリトンボ ケアホープ



山一株式会社



株式会社 奈良義肢

(株)大床義肢

(株)川村義肢エイドセンター奈良

(株)富金原義肢

ツザキ・ケア・ブレイス

テクノブレース

奈良ニッセイエデンの園

有限会社 ウィンド

有限会社 カンサイ義肢

編集後記

ついに本誌は20号発刊の節目を迎える事になりました。振り返ってみると、編集後記ではずっと暗い世相を嘆いてきたように思います。失われた20年などと揶揄されたりもしますが、本当にこの20年色々ありましたよね。それでも本会がこれほどまでに発展し、会誌が20年続き、なにより我々がこうして何とか生活できているってことは、それなりの20年だったと受け止めるべきなのかもしれませんね。しかし・・・、またこれからもきっと色々あるんでしょうね。

さて、今号でも多くの皆様にご執筆いただきました。ご多忙中にもかかわらず快くお引き受けいただきました事、心より感謝申し上げます。

それでは2014年が公益社団法人 奈良県理学療法士協会ならびに会員の皆様にとってさらなる飛躍の年となりますことをお祈りして、編集後記とさせていただきます。

公益社団法人

奈良県理学療法士協会

会誌部

部長 堀口 元司

部員 下出 好夫

鴨川 浩二

半田 学良

北川 翔太

編集発行 広報局 会誌部

町立大淀病院 リハビリテーション室

事務局 〒631-0846 奈良市平松1丁目30-1

地方独立行政法人奈良県立病院機構

奈良県総合医療センター リハビリテーション部

発行日 2014年7月吉日

非売品